令和６年度　第２回　学校運営協議会　記録

１．日時　　令和６年 10 月28 日（月）13:30～15:00

２．出席者

（１）学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校校長

【委員②】浜松市役所社会福祉課課長

【委員③】耳鼻咽喉科医師

【委員④】卒業生保護者

【委員⑤】自治会副会長（地域コーディネーター）

（２）校内教職員

校長　副校長　事務長　幼稚部主事　小学部主事　中学部主事　支援部主任　教務主任

３．会議次第

（１）校長挨拶

（２）学校経営　前期評価（成果と課題）・後期の重点

（３）委員からの提言

（４）「地域のかかわりアンケート」集計報告

（５）グループ協議「地域の中で自分らしく生きていくための教育活動の在り方」

（６）校長挨拶

４．協議等記録

〇校長あいさつ

今年度前期の大きな変化①寄宿舎設備の不具合により９月から視覚の寄宿舎をお借りすることとなった。移動に多少の難はあるが、子ども同士のかかわりなど良い面も見られる。変化②8 月に南海トラフ地震臨時情報が初めて発表された。今回は夏休み中だったが、学校のある日だったらどう動くか、準備、心構えについて考える機会になった。本日は、地域の中で自分らしく生きる子を育てるために、学校として今なにができるかについて協議したい。特に居住地域とのかかわりを増やすためにもっとできることを考え、よりよい教育活動につなげていきたい。

〇学校経営　前期評価（成果と課題）・後期の重点

〈幼稚部〉子ども同士の関わり合いが増えてきた。相手を見て話をしたり聞いたりについては、まだまだな部分が多いので、力を入れていきたい。ＩＣＴの活用は朝の会などで設定している。使うべき場面が限られるなど、課題を整理し、活用方法を精選していきたい。

〈小学部〉『伝え合いの約束』を意識して自分の考えを相手に伝えることを重視してきた。きちんと伝わったか丁寧に確認していきたい。教員間では授業を見合って学ぶ機会を設けていきたい。ＩＣＴ活用では、タブレットを使うことで苦手分野に取り組める子もいるので、強みを生かして活用していく。かかわりでは、他校との交流活動、校外学習など、いろいろな人とかかわる機会を意味あるものにしていきたい。今年からペア清掃を始めたことも子どもたちの人間関係を広げている。

〈中学部〉学年、学級を超えたかかわりの中で、対話的な活動の機会を増やしている。互いのよさを認め合い、強みを生かしながら、学校の中心として主体的に動こうとする姿も見られる。ＩＣＴに関しては、家庭学習でも授業でも効果的に活用している。ＩＣＴ頼りにならないように心を育てる教育活動を大切に。コロナ禍でできなかった交流を今年度から再開し、よいかかわりをもてている。外国籍、長期欠席など幅広い支援が必要な生徒がいるので、多くの支援機関とつながりを大切にしていきたい。

〈支援部〉乳幼児教室、通級、教育相談のニーズを把握して支援を継続していきたい。難聴についての理解啓発活動はまだ限定的なので、参加者を増やすための発信を工夫していきたい。

〈各分掌〉

教務課　図書委員会を中心におすすめの本の紹介や読書王の発表などの活動を行い、読書への意識を高めることができた。図書室利用に関しては、個人差が大きかったので、10 月の読書月間等で様々なイベントを実施し、児童生徒の図書室利用頻度を増やしていきたい。

研修課　各学部の教師に必要な専門性について改めて話し合う時間を設け、研修の方法について見直すことができた。教員間の対話的活動の機会を設ける事ができなかったので、ミニ学習会を実施して、各々の実践の情報交換をしていきたい。

自立活動課　学習会等を通して、聴覚障害児教育における指導技術や知識の伝授を継続することができた。なるべく教職員が学習会に参加しやすいように、実施日を調整していく。

保健体育課　子ども達は熱中症対策や自分の健康について学ぶことができた。教職員の救急法研修などを計画的に実施したり危機管理マニュアルを見直したりすることができた。子ども達が保健目標をどこまで理解できたか評価する場を設定する。緊急時の対応や記録表の使い方について、改善して教職員全体で研修を行う。

情報教育課　児童・生徒用端末の持ち帰り開始、電子黒板や教師用端末の再配置により、ICT を活用しやすい環境を整備することができた。授業で活用できるアプリ等の学習会を継続する。

生徒指導課　人権教育の推進週間を設定し、日々の生活や活動の中で重きを置くことができた。効果的で実践的な訓練及び学習会により、子ども達の意識向上と教員の課題を明確にすることができた。今後は、訓練と防災学習をセットで行う。年度初めの訓練で、学部体制や教員の動きを確実に確認したい。

寄宿舎　お楽しみ会や掃除の仕方など、舎生がお互いの意見を交流させ、話し合いを進めることができた。９月より浜松視覚の寄宿舎から登下校するようになり、時間的に詰まった日課となっている。そこで、行事や日常的な問題について朝食後や早下校の時間を利用して、舎生が話し合い、解決するようにしていく。

〇委員からの提言

委員②：寄宿舎の発電機の故障というイレギュラーな出来事の中で、他校の寄宿舎を間借りするのは大変なことだと思うが、他校の子どもとのかかわりが増えたというメリットもあったのでは。

委員③：自主通学から得られることも多いと思うので、自主通学する子が増えると良い。

委員④：ICT 活用がすすんできていると感じた。地域の中学校では持ち帰りをしていない学校もまだ多い。今後、この学校の強みになると良い。

委員⑤：ICT 活用がすすんでいて良い。今年、学校に隣接する四ツ池公園で土砂崩れもあった。この地区は災害が多いことが心配。

校長　：土砂災害警戒区域なので、大雨が降るたびに心配して対策をとっている。ICT 活用は積極的にすすめながらも、心を育てる教育を大切にしていきたい。

中主事：寄宿舎生に、視覚障害の方とのかかわり方を学んでから送りだした。福祉避難所について考える防災学習の際には、実際に視覚障害の方について自分から考え、発信していた。よい体験、心の学びとなっている。

委員②：寄宿舎生以外に影響はあるか。

中主事：寄宿で感じたこと、学んだ世界を舎生以外の友達に伝えている。

委員②：寄宿舎の件は思いかけずに大事な学びになっている。いろいろな人とつながり、かかわること。

委員③：ICT は実際にどういった活用をしているのか。

中主事：視覚的な支援が中心。数学は電子黒板で図などを実際に書き込んで活用している。英語、数学、国語等、クラスルームに自分の意見を書き込み、電子黒板で共有。生徒総会も一人 1 台タブレットを活用し、ペーパーレスで行った。将来の就労を見越して Zoom の活用も行っている。

〇「地域のかかわりアンケート」集計報告

夏休み前にグーグルフォームで保護者にアンケートを実施。交流以外でのかかわりについて。7割が何等かのかかわりをもっている。以前よりは増えている。習い事では積極的な交流はできていないかも。つけたい力は「コミュニケーション力」が大多数で、聞こえづらさを補うために自分からかかわる力が必要だと思いつつ、やりたいこととやれることに差がある。

〇グループ協議報告

〈グループ①〉

当たり前のこととして、小さい頃から地域で共に過ごすこと、受け入れてもらうことが重要。居住地校交流はもっと長い期間経験させることでより良い効果があるのでは。卒業生との交流、地域に出た子の保護者との交流もできると良い。県内３つの聾学校、またはその他の学校との交流も。

〈グループ②〉

国の大前提において、子どもが地域で安心安全な生活を送ることは最重要事項。学校で、コミュニケーション能力やＩＣＴ活用能力など必要な能力を育成し、頼りになる場所を見つけていく必要がある。地域で暮らすために、居住地域の相談センターとつながりをもてるようにしていく。

〈グループ③〉

恥ずかしい気持ちが生まれる前から居住地域の子どもとたくさんかかわって、たくさん知ってもらうことが重要。まだ言葉は通じ合わない頃でも、一緒に何かを作った経験を覚えている子は多く、大きくなってからつながるチャンスとなる。

〇校長あいさつ

たくさんの御意見をいただき、後期そして次年度に向けてわくわくする思いになった。来年度のＰＴＡ総会、授業等、できることを想像し、子どもたちの心を大切にしながら教育活動を進めていきたい。

〇今後の予定：副校長より

第３回　２/17（月）午前中　9:30～11:30

・３回目には再度校内参観して評価をしていただきたい。
・11/９（土）学習発表会にもぜひ足をお運びください。